

2023年7月実績概要（メモ）

（2023. 8. 24）

需要不振に伴う稼働率要因や定修規模差もあり、エチレンほか各誘導品の生産は前年対比で大きく減産。

1. 生産動向

イ) エチレン 411, 100トン

前月比 + 7.4% (+28,300トン)
 前年同月比 ▲15.0% (▲72,400トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	+ 5.1 %	+ 1.3 %
能力増減	—	+ 0.3 %
稼働率変動	▲ 1.0 %	▲ 16.6 %
生産増減率	+ 7.4 %	▲ 15.0 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月77.1% → 当月76.5% ← 前年同月90.0%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月なし ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、稼働日数増に加え定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、ベンゼンなどの10品目がプラスとなった。逆にEO、EG、BR、トルエンなどの7品目は定修規模の増加や稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因や定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの17品目がマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、稼働日数の増加や定修規模が縮小したこともあり、LDPE、HDPEで大きめの伸び率となったほか、PP、PSでもプラスとなった。

前年比は、定修規模差に加えて稼働率要因他から、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは引き続き持ち直しの動きが続いているとともに、国内製造業における生産計画も増加基調にあるが、生産のマインドは海外景気の下振れ懸念に伴う弱気部分が潜在している。また、物価高が続く中、消費性向としてはサービス分野への偏重も見られつつある。

樹脂の出荷は、前月比は、前月にやや出荷が増加したこともあり、比較上、LDPE、HDPE、PP、PSともにやや減少気味となった。

前年比は、4樹脂揃ってマイナスとなり、引き続き前年割れの状態が続いており、7月単月の出荷量としても、近年では、低めの出荷量となった。分野別の動向でもほとんどの分野で前年を下回ることとなり、PPの輸送機械向け部材や、PSのコンビニ向けの容器等のFS分野などの特定分野向けの出荷のみが、前年を上回る状況に留まっている。

ハ) 輸出

極東地域の樹脂需要は、回復の動きは見られておらず、前月比は、供給量との関係もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。前年比は、LDPE、HDPEはプラスだが、PP、PSは前年を下回る状況が続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPEは増加、HDPE、PP、PSはいずれも減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPEは上昇、PPは前月並み、PSは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PPは高め、PSは適正水準近くになった。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LDPE	+ 5,800	3.6	3.8
HDPE	▲ 7,600	3.9*	4.1
P P	▲ 19,300	3.3	3.3
P S	▲ 6,300	2.0	1.8

前月からの修正を*で付記

以上